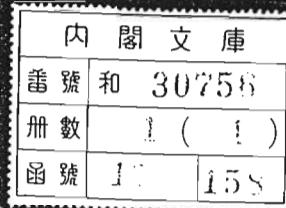
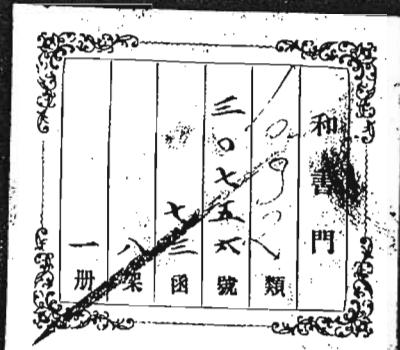


隱岐國古記

全



6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1



孟子曰人情以之堯舜  
たる處一往者獨異也とて  
りきのを見しに請う  
辨智基將秦其外いれ  
藝に委へるが、今多  
ひ中ふされりかく比智惠  
能者大能矣天也のあら  
よくも生き出一とみの承  
んせ今小於てあらば驚く

さかり城句に附せられ  
竹の内而立思へと風雅の達  
貨をあれど詩を章曲は  
及ばぬもあくまで城は  
見てやうとせぬもの有る者  
今書にて一より城挂ひ  
あらゆる所へお尋ねみく  
書はれど已被雲陽御後君の  
徳が現徳合祀ある(見)と  
早車にてゆづみ於小西城を

費も昔年張思林座右籍  
よきくも諸も為しに行  
も思も篤致~~思~~は思も情節  
にゆきまじめに楷正も辭  
まと古人の跡をもと  
かうみゆはるかに悪人  
形のやうに文家に納て終  
ちんのこ

平時文政六秋九月大西教保  
書

隱波古記集 鳴後

隱州の所左は歴代史を考  
るに日本比乾地は西とて  
限りむちもや雲州三保園  
ヨリ三拾五里震地小豆島  
後と少用去船越智船焉に  
屬モ其南岸を西郷といふ  
又中北府とし東モ大久村  
ヨリ西は油井村と長五里  
三村町小豆島村大南ハ今津

村造核方里半と近傍の地圖  
核八里程邑ヨリ坤地尔位  
ヨリと鴻前とソラ知支里郡  
滿士那馬小属を所謂ニツ  
ホカラ海東於至鴻別府村と以て  
府と次モ南シ知支里村ノ如  
宇努村尉島之族と四里余長  
トヒ東名布施村ノ如ミ奈  
田村弘哉の地の出島と三里  
余と鴻之島間王核八里程又

未申ノ方五核八里少一石州  
温泉津尔部る辰巳ノ方四核里  
伯明赤崎あり卯方凡百里  
少一差明小演ニ西リ里宮ノ  
方凡百三核里能被乃少島  
亥ノ方四半里少一松若江  
用ノ凡半里程少一木本  
岩浦とソ又面ノ方七十里餘ニ  
升鴻とソハ傳小竹本輕義と  
大島の由是朝鮮城坐めは

隠あすり雲あと見あすり高

近くやま今も朝鮮人多住

ときも愚譯の船ふ官船す

み方角誠み旅、秋は天霜の

日小大満寺山の頂上より空ア

き李鳴を遙か見へて少行

高々朝鮮比池山が懐うれ

まく空穴は朝鮮地と名

る由恩按齒坐みて古より施行

と云傳へり視種言記今や朝鮮

の安面を見たに彼は市原

寅年方赤對ちふ豊浦を、

方ふ南りく蔚陵鳴といふ

至鶴の丑ノ方よテ齒とて山  
有て見ゆ彼當とててててててて

北人稱鳴と号一あらん、齒

東百里の内都に彼ニ泊すり

和見へる由那人の住居  
うちも近ひあり、有馬、豊臣

大閻征伐の時豈る鶴の城ニ朝

解人範城之とす  
朝解注代記  
被是と見るに竹鳴も別鳴  
らく波ゆき見ゆれぬ亦昔陰陽  
の二神ニ鳴を佐波生アマツシマ一より  
と或云少アマツ少アマツ比鳴ヒナミ（遠波  
也又高タカミ安國アシカミ）が御ミコトす宮  
の方大山明神アマツミタケミコトの社マスナ  
早アマツ御ミコトの本アマツ（皇北始  
祐武天皇勅アマツミタケミコト）と神木と宣  
ふさう神木の名とほとき

按もるに二神日本城大アマツ  
とハツ小分アマツ少アマツ五畿アマツ清アマツのこ  
と於十三代成務帝皇アマツミタケミコト之造長  
を立アマツしよりに橋矛アマツを賜アマツ  
り天下の恩割アマツ成アマツノ利アマツ  
二神之御定めを守アマツせらひ  
て日代アマツ及アマツ以アマツてはアマツを定アマツめ  
西アマツと日綴アマツと南アマツと日接アマツ  
一山陽アマツと新面アマツと山陰アマツ  
と背面アマツとて三十三アマツを小分